

野菜研究室ダイアリー

2026 年 1 月



○本年もよろしくお願いします！

21 世紀に突入し、いつの間にか四半世紀もの月日を重ねました。新春などと申しますが、時節はむしろ冬まっただ中。昔のこよみはいまひとつ理解できません。



年明け早々、列島が寒波に覆われ、私たちの農場にも雪が積もりました。

○イチゴ育種サポーター会議‘厳寒期版’を実施しました

12 月に引き続き、イチゴ育種サポーター会議が開催されました。お忙しい中、各産地から農家代表の方々にお集まりいただき、ご助言を賜りました。





厳寒期の生育状況と食味を確認していただき、2026 年度産での現地試験について協議しました。サポーターとして参画いただいているすべての産地で、現地試験を実施していただけることになりました。

○日々のお仕事あれこれ

私たちの研究室は、主に施設で越冬栽培する方法で試験を実施しています。なので、真冬の仕事もバラエティ豊かです。



愛知県とＪＡあいち経済連が育成したイチゴの品種「愛経４号」です。
シーズン本番を迎え、収穫調査が続きます。

※愛知県内のＪＡ系統出荷農家が生産し、店頭では登録商標名「愛きらり®」として販売されています。



実験に使うトマトのタネを蒔いています。



カラカラに乾燥させたキュウリの葉や茎をすりつぶして粉末にしています。
一見すると抹茶のようですが、キュウリです。成分分析に使います。

野菜のお世話は切れ目なく続きますが、私たちの仕事は年度替わりが一応の節目となります。研究室のスタッフも、一部は入れ替わります。これから年度末となる3月31日にかけて、今年度のまとめと次年度の計画づくりに多忙を極める季節となります。

